



北海道中札内高等養護学校 コミュニティ・スクール通信

中札内高等養護学校
CS(学校運営協議会)事務局
発行日:令和5年2月21日

令和5年度第3回コミュニティ・スクール(学校運営協議会)開催

2月21日、今年度3回目のコミュニティ・スクールは(学校運営協議会)が開催されました。

本校のコミュニティ・スクールは、『中札内村で生活し働く人材の育成』という長期目標を掲げて取り組みを進めています。地域の皆様に学校が愛され、望ましい連携の形をお互いに考え、『進路支援体制の充実・発展』を進めています。

①今年度の進路動向

今年度の3学年の状況としては、4割強の生徒が一般就労、5割の生徒が福祉的就労という傾向となりました。現在、1名の生徒が実習に入っておりますが、本人の頑張りもあり雇用に結びつく手前まで来ています。今年度は、進路先が未定の生徒がなく、生徒全員の進路の方向性を確定し卒業という形になりました。

就労率は、全道の高等養護学校における平均的な一般就労率となりました。一方で福祉的就労に関しては、十勝管内にとどまらず新冠、南富良野、美唄と広域に広げての進路開拓を進めることになりました。

一般就労に関しては、農林関係では競走馬の牧場、林業、製造業ではタイヤチェーン製造、食品加工中札内村のまごころ塗装、小売りではスーパー系、ホームセンター系、電化製品、飲食・接客業ではホテル、外食業、ガソリンスタンド、介護系となりました。生徒のもっている力、職場から求められる力のマッチング(適性)を大切にしながら進めました。

移行支援事業所には10の生徒が進路を進め2年間という期限の中で就労を目指します。

A型事業所では、洗車関連、JAL、キッチンカーでピザフリッターの販売。B型事業所では7名の生徒がそれぞれ物づくりや接客などの仕事を通じ、じっくり就労を目指すことになります。自立訓練や進学といった形での進路を進める生徒もいます。

また、本校の進路の特徴的な所としては、グループホームなどを利用し家庭を離れて生活自立をする生徒数が1/4と非常に多くなっていると捉えております。この背景には、本校に在籍している生徒が広域から集まっていること、卒業後に地域での就労及び福祉サービスが受けられる地域とはなっていないこと、家庭の事情などがあげられます。

最後に進路指導部としては今後も生徒が社会で役割を果たし、活躍し続けることができる環境を多くの方と企業、事業所とビジョンを共有し、お力を借りながら整え進路指導を進めていきたいと考えています。そして、その結果として中札内村での生活、中札内村での就労とつながるケースが一例でも実現できればと考えております。

②学校評価について

学校、保護者、生徒の評価について説明。

○単純な質問だが、評価の提出率が100%になっていないのはどうしてか。
→評価の提出はWebで活用しているが、しっかりと周知できない部分もあった。

③次年度の学校経営計画について

グランドデザインとその解説について校長より説明。

【質疑応答】

○全体的に、少し難しい印象を受けました。
→貴重な御意見であると思います。誰にでも分かりやすい表現となるよう今後改善していきたい。

○様々な販売方法の部分については、即売会になかなか参加できない方もいるので、インターネットなどで買えたらよいと思う。村のページにリンクをはるなど工夫が必要かもしれない。

○ふるさと納税などに、キーホルダーやお皿なども加えてもらえたらいいと思う。それを他の地域の方が見たときに、生徒を通わせたいと思う方がいたり、企業への就労についても広がりがあるのではないかなと思う。

○ふるさと納税については、中高養の製品を地域の返礼品に1品添える形で取り組むのがいいと思う。そこには、学校の紹介などの手紙を添えて送ることも大切だと思う。全国発信でき、地域と一体となった形になる。

○製品の受注については、まずは村の企業と連携してほしい。お皿などの受注を受けて、村のお店に入れば、どのお店でも養護学校の生徒の製品があると、地域と密接に結びついていることが、みんなの目に見えてくるのではないかな。

○道の駅でも、4月に、前年度につくったものが納品されるが、1回の納品のみである。多くの人の目に触れるので、すぐになくなってしまふのはもったいないなと感じる。工業科のコンクリートを置いておくこともできるので考えてみてはどうか

○学校の製品などを役場や文化創造センターなどに展示することで、いろいろな人に学校を知ってもらえると思う。

→製品の販売については、道の駅販売会と展示即売会の販売に向けて、ある程度の製品数を確保する必要もあることと、授業で製作できる数には限度があるなどの課題がある。今後、どのような販売方法や受注販売が可能か、校内で検討を進めていきたい。

④その他

○次年度はぜひ学校参観をしたい。日常的に委員が授業の片隅で見学、参加できるような機会があるとよい。学校の先生以外の人が見ることはいいことだと思う。

→参観の機会については、前向きに検討したい。保護者や地域の方に見ていただくことは、生徒、職員の刺激にもなると思う。

→地域への発信については、今年度、学校案内ポスターを展示したり、地域向けの学校見学会を実施した。次年度に向けて、教育委員会からは村のポロシリ大学（高齢者大学）との連携の話もいただいているので、少しずつ交流を広げていきたいと考える。

⑤校長より

○先日、今後の村や学校の将来について考えるために役場の総務課長と懇談を行った。中札内村の将来像について村の方々とも共有しながら次年度以降も取り組んでいきたい。